カンボジアで救急医養成

カンボジアで初めての救急専門医を育てようと、兵庫医科大学（西宮市）の医師有志や同国を支援するNPO法人が、現地や同大学で研修や学費支援などを進めている。貧富の差が大きく、救急車や病院を利用できない人が多い上、医師ら多くの知識人が旧ポル・ポト政権時代に殺害され深刻な医師不足が続く同国。関係者は「阪神・淡路大震災や尼崎JR脱線事故の経験も踏まえ、災害対応にも専門性を持つ医師を育てたい」と意気込む。（金井恒太）

兵庫医大など研修や学費支援

カンボジア・プノンペンの病院で医師やリヘイン・ブーヒーングさん（右から2人目）に救急医療を指導する上田敬博副センター長（同3人目）＝2012年8月（上田副センター長提供）

途上国に技術を伝える「日本国際救急救助技術支援会」（JPR、事務局・同大学内）と、JPRに所属する同大学の医師や看護師ら。2005年に神戸市消防局などの消防士らが結成。10年からは理事長で同市消防局出身の正井潔さんがカンボジアに移住し、救急体制の整備などを進めている。

救急医育成は11年ごろから本格化。地元の看護師だったリヘイン・ブーヒーングさん（28）にJPRが学費を支援し、現在はカンボジア空軍医科大学で4年生として学ぶ。兵庫医科大救命救急センターの小谷穣治（じょうじ）センター長や上田敬博（たかひろ）副センター長らがカンボジアへ出向き、リヘインさんらに救急医療の指導や助言を行ってきた。

昨年7月には兵庫医科大での研修も実施。リヘインさんは当直業務も担い、交通事故による外傷や脳卒中などへの救急医療、肺蘇生、重症熱傷患者への皮膚移植などを現場で学んだ。「日本のように24時間、お金の有無に関係なく患者の命を守る救急体制を母国でつくりたい」と決意を新たにしたという。

災害対応含め専門性重視

上田副センター長は「オンラインでカンボジアの医師からの診療相談にも応じている。救急・災害医療の教育プログラムづくりも支援したい」と話す。